

野に山に緑の色が濃くなって、そこかしこに春色の動く気配がします。待ち遠しい春本番が、もうそこまで来ています。

本日をもって平成28年度の全教育活動を終えることとなります。保護者並びに地域の皆様方には、この一年間、本校教育活動に対しまして、温かいご支援とご協力を賜りましたこと、誠にありがとうございました。衷心よりお礼申し上げます。来年度におきましても変わりませず、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

## 卒業生 巣立つ

3月18日（土）、卒業証書授与式を挙行いたしました。多くの来賓の皆様方、卒業生保護者の皆様方のご臨席を頂き、誠にありがとうございました。多くの方々の見守りの中、6年間の全課程を終えた卒業生が、立派に本校を巣立っていきました。当日の校長式辞の一部を以下に紹介します。

（前略）きっと、これからの毎日も、前向きに一つ一つ結実させながら、歩いていかれることと思います。しかし、人生は、いいことばかりではありません。まさかと思う出来事も起きます。一生懸命取り組んでも、良い結果が出ないというようなこともあるでしょう。けれども、そんな経験も宝物に変えられるはずです。そして宝物に変えられるかどうかは自分にかかっています。皆さんは、これからの歩みの中で起きる様々な出来事に、時には喜び、時には悩み、心を大きく揺れ動かしながらも、たくましく成長していくに違いありません。夢と希望を持って、試練も肥やしに変え、大きく羽ばたいてほしいと思います。

「失敗のない人生は失敗である」という言葉もあります。誰でも失敗から多くのことを学ぶことができるのです。多くの学びを得て、成長できたとき、失敗は宝物へと変わります。成功しかしたことの無い人生なんてあり得ないし、たとえあったとしても、そんな人生は失敗なのです。ただ、私は「何にもチャレンジしないこと」と「人生の貴重な時間を他人を恨み、攻撃することに使うこと」、この

二つの失敗だけはしてほしくないと願っています。光陰矢のごとし、人生はあっという間です。逃げたり、恨んだりするのではなく、様々な出来事を感謝の種に変え、前をしっかりと見つめて進んでいってください。

さあ、想像してみてください。赤ちゃんの頃からの皆さんの努力や成長を、いつも家族が愛情を持って優しく見守ってくださいました。そうやって注ぎ込まれた愛情や優しさが、皆さんのチャレンジや、成長の原動力になってきたのです。その後も、家族に加え、地域の方々、先生方など、より多くの人々に見守られてきたのです。どうかそのことに気づき、改めて感謝の思いをもってください。

また、担任として、将来のことまで見通しながら、誠実に向き合ってください。藤澤忍先生を始め、これまでに出会ってきた多くの先生方。実際に会うことは少なくとも、地域の方々、教育委員会の方々、給食センターの方々など、たくさんの方が、皆さんのために一生懸命になってくださっていました。そういう人たちに、皆さんは囲まれているのです。今、このときも、これだけ多くの方々が集まって祝福してくださっています。皆さんはそういう温かい想いをたくさん受けています。これからもそうです。どうかそのことを信じ、改めて感謝の思いを強くしてください。

(中略) これから様々なことがあるでしょう。でもあなたたちなら乗り越えられます。当たり前の中にも必ず感謝の種はあります。一見嫌なこと、不幸に思えることの中にさえ感謝の種はあります。「当たり前」でなく「ありがたい」と思えたときは、それが見つかったときです。そのときは、平凡な日常、不平不満さえも感謝に変えられます。感謝は幾倍にもなって戻ってきて、自分を幸福へと導いてくれます。感謝は最強の道標です。感謝の気持ちをもっている人は、道を見失うことはありません。感謝は竹の節のような立派な節目を作り、皆さんを一層強くします。卒業という大事な節目を感謝によって、しっかりと作ってください。家族や支えてくださる多くの人々への感謝の気持ちを携えて中学校生活をがんばってください。私も素晴らしい6年生のおかげで、赴任1年目から幸せな日々を過ごすことができました。感謝です。本当に有り難う。(後略)

## 卒業式練習

卒業式に向けて、全校が気持ちを込めて練習してきました。1年生も時と場をわきまえて、精一杯頑張っていました。入学式の頃から比べると、大きな成長を感じます。大規模校であれば中学年から参加することが多い卒業式に、全校が参加できることは、とてもいい経験になる反面、長時間にわたる卒業式に参加することは、低学年にとっては大変辛いことでもあると思います。しかし、練習・卒業式の流れの中で、「6年生のために心を込めて、いい卒業式をしよう」と、一貫して一生懸命に取り組んでいる姿が見られ、とても頼もしく感じました。



## 児童朝礼 6年生からのプレゼント（J P Xの収益金等から）



3月17日（金）の卒業式全体練習の後、6年生からごぎのプレゼントがありました。これで、6年生がJ P X（起業体験プログラム）の収益等から学校にプレゼントしてくれたものは、前回のワイヤレスマイクと各学級へのサッカーボールに加えて3品目になりました。6年生に感謝しながら、大切に使用していきたいと思います。

## サケの放流会（4年生）



3月18日（土）の午後に4年生がサケの放流をしました。一生懸命育てたサケの稚魚は、元気に川を泳いで見えなくなりました。3年、4年後に大きくなって、戻ってきてくれることを願っています。放流の後、おいしいぜんざいをご馳走になりました。何杯もおかわりをした子どももいました。いい思い出がまた一つできたと思います。

# 学校評価について

今年度の学校教育目標の達成状況を学校評価としてまとめました。具体的な取組について自己評価（児童、保護者、地域アンケートの結果をふまえた評価）を実施し、学校関係者評価委員による評価をしました。（紙面の都合で一部のみ掲載しています）なお、詳しい内容は江津市教育委員会のホームページに掲載されております。 A：目標値をすべて達成 B：いずれかが目標値を下回る C：2つが目標値を下回る D：すべて目標値を下回る

江津東小学校

短期経営目標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
	評価	結果と課題の説明	コメント	評価	
豊かな心づくり 入権・同和教育の充実 よりよい生き方をめざす道徳教育の充実 特別支援教育の充実	A	計画的に人権教育に視点をあてた授業や活動を行い、児童の意識も高まってきた。	・来年度の発表会に向けて刀を入れていることがわかる。人権に関する本の読み聞かせをしているが、一生懸命聞いていて、伝えたいことが伝わっていることがわかる。	A	
	A	資料や題材の見直しを行い、他教科や行事との関連を図りながら指導することができた。道徳の授業について指導主事に指導を受け、指導力の向上を図った。	※すべてのA評価において、今後も継続して取り組んで成果を上げてほしい。	A	
	A	支援計画や指導計画に基づいて計画的に支援ができていた。今後も指導を継続していく。		A	
	A	どの授業でも話し合いの場を作り、学習形態や自分の考えを持たせた。話し合いの課題を明確にもたせる必要がある。	・赤ちゃん登校日はすごくいい取組なので続けてほしい。生命の大切さをしっかりと教えてほしい。	A	学び方のスキルや学習やコミュニケーションをどうよきについて学ぶ。 事前学習会で共通理解を図る
確かな学力づくり 基礎的・基本的内容の定着 魅力的で創造的な授業づくり 図書館活用教育の充実 家庭学習の定着	A	計画的に行ったが、児童が力の伸びを感じにくい部分もあったので、内容を基礎・基本に絞り、実施していく。学校によりなどで学習の様子の発信が少し足りなかった。	項目の5～8は細かく目標を立てて取り組んでいるので、少しずつ向上していると感じる	A	
	A	学習課題を明確にし、板書等で見通しを持って取り組めるようにしている。		A	
	B	児童の質問の内容が学年の実態とは合っていない。高学年はページ数が多いので週2回は難しい。利用の指導や教科と関連づけて活用はしている。		B	質問の文言を実態に応じて変える。
たくましい体づくり 基本的な生活習慣の定着 体力づくりの推進	A	目標値は達成しているが、現状として地域の方など誰にでも気持ちのよいあいさつができていない。	・地域ではあいさつをしていると感じる。子どもたちはしていると思うが、大人のあいさつのイメージをギャップがあるのではないか。	A	今後も継続して取り組んでいく。
	B	どの学年も体育の授業で取り上げて行っている。保護者への質問の仕方とプログラムのことが一致していないので、数値が低かったと考えられる。		B	保護者への質問の仕方を変えていく。
なかよし班活動の充実	A	どの学年も食の学習を行い、給食試食会で保護者へ食に関する啓発活動を計画的に行った。		A	
	A	昨年と同様の回数で取り組めた。活動後の感想交流も意図的に取り入れ、各学年の相互交流もできた。		A	なかよし班を中心とした活動を、年間を見通して計画的に取り組む。
信頼される学校公開の場、情報発信	A	どの学年も地域を通して事象を考えるという姿勢で積極的に地域に出かけたり、地域の人を活用したりした。	・JPXはおもしろい取組で、継続してほしい。 ・地域と一緒に食べる、技術を伝える等の活動ができればいい。	A	
	A	学校の様子を見ていただいたり、伝えたりする場を計画的に実施することができた。学校により毎月継続的に発行することができた。		A	
保小中の連携の推進 学校評価の充実、教職員評価システムの充実	A	今年度は1、2年が保育園児を招いて交流活動を行った。中学校とも学習会や人権集会、コミュニケーション講座など交流の場を多くもつことができた。	・校区の特色を活かして小中合同の活動がいろいろできるのではないか。例えば地元の産業を調べてお互いに発表する等。	A	
	A	来年度人権教育研究発表会を控えているので、全国の発表会を視察する機会を多くもち、それを共有することで意識の高揚を図った。		A	

# 人事異動のお知らせ

この度の人事異動で、小西博文教諭が退職（高角小学校で再任用）、平野勇治教諭が再任用で津宮小学校、引野奈弓教諭が松江市立乃木小学校に転出いたします。これまで、大変お世話になりました。ありがとうございました。